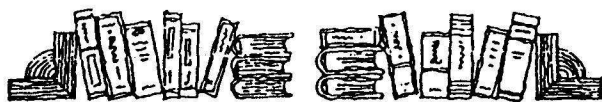


国語国文学会だより



No.12

1994. 11

国文学科卒業生の会

国語国文学会 秋季大会・公開講演会のご案内

平成六年度の秋季大会・公開講演会を、左記のように開催致します。

ご多忙のこととは存じますが、お誘い合わせのうえご出席下さいますよう、
ご案内申し上げます。なお、会員以外の方々のご来場も歓迎いたします。

日時・平成六年十一月二十六日(土)

場所・午前) 泉山館 第三会議室(二階)・午後) 八十年館・八五一号教室

【午前の部】*研究発表会 泉山館 第三会議室(二階)

(午前十時~十二時)

(1) 人麻呂における天皇神格化表現の確立——歌集

歌から作歌へ——

本学博士課程 八木 京子氏

(2) 近代文学の中の〈子ども〉——明治期少年文学

を中心に——

目白学園短期大学専任講師 久米 依子氏

(3) 授業実践——ばなな、春樹、夏生を読む生徒に

とって、樋口一葉の世界はどう映るのか——

東京家政大学附属女子高校教諭 麻生 和子氏

【午後の部】*講演会 八十年館・八五一号教室

(午後一時十五分~四時三十分)

*開会の辞

*活動報告・連絡事項(学生委員・卒業生常任委員)

*学科主任挨拶 阿蘇 瑞枝先生

(1) 舞の本と法華経

日本女子大学教授 麻原 美子氏

(休憩)

(2) 「蔵」「クレオパトラ」にみる女性の生き方と私

作家 宮尾 登美子氏

*閉会の辞

(学生委員)

昼休みに図書館5階518講義室で「古典芸能」「源氏物語の世界」などのビデオをご覧になれます。

懇親会のご案内

秋季大会終了後、生協食堂に場所を移して、先

生方、在学生をまじえて恒例の懇親会を開催い

たします。

会員の皆様の、多数のご出席を心からお待ち

致しております。

なお、同封の葉書にて出欠をお知らせ下さい。

時・午後四時四十五分~六時十五分

場所・生協食堂(ワイミン)

会費・卒業生 三千円

在学生 千五百円

(当日、大会受付にていただきます。)

国文学科から日本文学科へ 名称変更について

国文学科主任 阿蘇 瑞枝

国文学科では、平成七年度より、学科の名称を日本文学科と変更する予定で、準備を進めております。

本学科は、昭和二十三年四月に新制大学として認可され発足しました時に、その前身としての国文学部の名称を受け継ぎ、国文学科となりましたが、はや四十六年余りの歴史を歩んで参りました。私共にとりまして、国文学科の名称は愛着ひとしおなるものがあります。

けれども、多くの海外からの留学生を迎え、本学からも毎年海外へ留学生を送り出しています現在の状況を考えますと、自国中心との批判を仰ぎかねない国文学科の名称よりも、世界文学の中に位置する日本文学という認識を以て、日本文学科の名称を用いるべきではないかと判断するに至りました。すでにかんりの大学が、日本文学科あるいは日本語日本文学科の名称を採用しています。本学でも、同趣旨により、昭和四十一年四月に発足いたしました大学院では、日本文学専攻の名称を採用いたしました。さらに、平成二年四月、日本語教育講座を開設するに当りましたは、科目名のなかの国語学・国文学を日本語・日本文学と変更いたしました。

明日を目指して常に新しい道を歩むという本学創立以来の精神にも沿うものと思いますので、皆様のご理解とご賛同を切に願う次第です。

科の名称変更について 卒業生の会より

七月末日、国文学科主任阿蘇瑞枝先生より「科名変更の準備を進めていくことになるが、歴史のある科名であり、卒業生も多いので、皆さまのご理解、ご協力を是非ともいただきたい、機をみておはかりください」とのお話が総務にありました。

八月中旬、「斉藤寛次郎常務理事も卒業生のことを心配しておいでなので、ご相談いただきたい」とのご連絡があり、常任委員に連絡、九月上旬には回生委員にも連絡をとり、意見をまとめることにいたしました。

- (1) 時代の趨勢であり、やむを得ない発展的改称と考えよう
- (2) しかし、その理由を「国語国文学会だより」でご説明いただきたい
- (3) 一人でも多くの卒業生に知らせるよう、努力していくべきであるし、そうしていただきたい。桜楓新報への掲載なども、お

考えいただきたい
などの意見を阿蘇先生にお伝えし、上記の原稿をいただきました。

学科の名称変更については、それぞれの胸にそれぞれの思いがおりかと思えます。し

麻原美子氏

日本女子大学文学部国文学科卒業（新四回生）後、東京教育大学大学院文学研究科博士課程に進まれ、満期退学。母校に戻られて研究、後進の指導に当たり、現在日本女子大学教授。

大学院在学中から中世文学の泰斗小西甚一教授の薫陶を受け、中世軍記と語り物を専攻とされる。二十余年の幸若舞の研究の成果『幸若舞曲考』（新典社）で文学博士（筑波大学）。現在幸若舞研究の第一人者と高く評価されている。『天理善本叢書 舞の本大頭本』（八木書店・編著）『新日本古典大系 舞の本』（岩波書店・共著）『屋代本高野本対照平家物語』一、二、三（新典社共著）。

「平家物語の生成と真言圈」（有精堂講座）「あなたが読む平家物語1・有精堂」他、『平家物語』を中

心とした軍記関係論文多数。

また『日本名句辞典』（大修館・編著）『説話文学辞典』（東京堂・編著）『古語辞典』（講談社・編著）など、著書、編著多数。

学内のみならず各種学会で活躍中の先生は、本学の国語国文学会発会再編成に尽力される。

また、日本女子大学図書館友の会で『平家物語』の講座を受け持たれ、会員に『平家物語』の面白さを熱っぽく、わかりやすく語ってくださり、平家ファンを増やしつづけている。



宮尾登美子氏

大正十五年高知市生まれ、父は芸妓紹介業。この出自が宮尾文学の底流には流れつづけているといわれている。

昭和三十七年、前田とみ子の筆名で書いた『連』によって「掃人公論」女流新人賞受賞。その後、苦節の時代を経て四十八年『權』で太宰治賞、『陽暉楼』『岩佐寛え書』、五十二年『寒椿』で女流文学賞、『鬼龍院花子の生涯』、五十三年『一絃の琴』で直木賞、『序の舞』で吉川英治賞、『天璋院篤姫』『朱夏』『春燈』『東福門院和子の涙』など、話題作を発表、現在朝日新聞日曜版に『クレオパトラ』を掲載中。

平成四年、毎日新聞に連載された『蔵』は、日本伝統の酒造りに題材をとり、盲目の主人公烈の清冽な生き方は、大きな反響をよんだ。また、『蔵』のもつ独特のぬくもり

は、随所にはめこまれた新潟方言に負うところも大きいように思われる。

そして、今回の講演が実現した陰には、語りことばを大切にされ、丹念に取材、研究される氏であればこそそのエピソードがある。半ば無理と諦めつつお願いしたところ、「お返事にはずい分となやましました。スケジュールも混んでいるし、十分な話もできないこともあってご辞退に傾いておりましたが、かつて亡き国田百合子先生の懇請もお断りしていますので、今回は意を決して……」とご快諾。

国田先生は女房詞の第一人者、作品中の話し詞についてご相談されたことがある由。古い縁を大切にしてくださる宮尾氏に、烈や佐穂の誠実な生き方をうかがい得たような思いがしている。

かし、科名変更は今回に限ったことではなく、率先して時代を拓くために、また止むを得ぬ時代の流れの中で、幾度か行われてきております。

日本女子大学校

明治34（一九〇二）年 国文学部

40（一九〇七）年 文学部

45（一九一二）年 文学部募集中止

大正6（一九一七）年 国文学部復活

昭和20（一九四五）年 〔文科〕国語科

21（一九四六）年 〔文科〕国語国文科

日本女子大学（新制）

昭和23（一九四八）年 〔文学部〕国文学科

私どもの学んだこの学科の名称の移り変わりを、初めて発行します会員名簿にも付記することを決めました。

科の名称変更につきお考え、ご感想がございましたら、同封の大会出席がきにてお寄せください。また、会員以外のクラスの皆さまにもお伝えくださいますよう。

今回の件につき、阿蘇先生はじめ、研究室の諸先生、また斉藤常務が卒業生の私どもにも深いご配慮をくださいましたことを、お伝えしたいと思います。

（総務・斉藤令子）

*上村悦子先生のご近況

上村悦子先生のご都合で長年主宰してこられた「万葉をきく会」が、十一月をもって閉会されることになりました。

三十五年余の長い間、桜楓会をスタートに、後に独立して目白駅前あさひ銀行で続けてこられた会で、参加された国文科の卒業生も多いと思います。「万葉集」「蜻蛉日記」「枕草子」と、先生のご熱心な講義内容に、参加者も魅せられて、今日に至っております。

しかし、ご自宅での先生はお元気で、宿願の『注釈蜻蛉日記』は最終刊が近々発行の予定ですし、本文研究にいつそう励みたいと意欲満々です。『和泉式部の歌入門』（笠間書房）が十月中旬に発行され、『万葉集入門』（講談社学術文庫）も執筆ご予約です。

*『目白近代文学』（終刊号）発行

平成四年、亡くなられた井上百合子先生が、教え子の研究発表の場として昭和五十四年創刊号から十号まで、私費を投じて発行を続けられてきた『目白近代文学』が、「一応幕を引くこと」になりました。終刊の十一号は先生の学恩に応えようとメンバーが編集、三回忌を迎える今秋、発行しました。あとがきの、「いつか、新たな形で〈目白〉が集うことを期したい」に、文字通り期待したいと思います。

◆会よりのお知らせ◆

・名簿について

十月十五日までの振替用紙による住所の変更は確認できましたが、それ以後の方々の変更は、時間的に間にあいませんでした。また、初めての名簿発行で、何回かの調査はいたしましたものの、ミスがございましたら、ご連絡くださいますよう。

以後、何年に一度かは改訂してまいりますので、氏名・住所・電話番号変更の折りは、必ずご連絡ください。

・振替番号の変更

郵便局の振替番号が変更になりました。新しい番号は

〇〇一九〇一六―一九七〇七

・会費の納入について

会費をお早めにお送りください。振替番号は、今年度いっぱい古い番号でもよいとのことですよ。

一九九四年十一月一日

発行・日本女子大学国語国文学会

卒業生の会